



国循の移転は決まらなくても貨物専用道路の工事は進む

「はない」という慣用句の典型。九州から吹田への移転費用約2千7百万円。ゼロ系新幹線がさびないよう、ビニールシートに約300万円。支払われているのは税金だ。

現在の状況を追いかけてみた。さすがにこの開発は無謀だと気付いたのか、現市長は「新たな都市の森」を言い出した。「吹田市南部にも緑を」という市民の声を聞き始めたことは評価すべきだが、一方で、これまでの「大型開発呼び込み方式」が破綻したことへの責任はほかおろしたまま。今後もどれだけの血税が積み込まれるかわからない「東部拠点整備」。思い切った「緑あふれる防災公園」に方向転換することを進言したい。

思い切った方向転換を

ざっと、「東部拠点開発」

問題だらけの「東部拠点整備」

吹操跡地は緑あふれる市民の防災公園に

東日本大地震での甚大な被害を目の当たりにして、あらためてこの国の防災態勢が脆弱であったことが露呈した。原発の安全神話が崩れ、被災者は地震、津波、放射能で3重に苦しめられている。政府や東京電力の対応が後手に回りに、原発事故が拡大する中、支援



JR岸辺駅北側は急ピッチで整備されている



跡地は緑あふれる防災公園にすべきでは？

現実味が欠ける「エコメディカルシティ」さて、わが吹田市はどうか？現在の吹田市、最大の課題は吹田操車場跡地の開発（東部拠点整備）だ。JR岸辺駅

- ① 大震災が起これば、避難所を確保しなければならぬが、吹田市南部には公園などの大規模なスペースが少くない。
- ② 北部に比べ、南部は緑が少なく、かつての公害指定地域だった。まして、梅田貨物駅移転に伴う「貨物専用道路」が建設される。緑の確保が急務である。
- ③ 市民病院を移転させれば、莫大な費用がかかる。国循が移転する保証もない。
- ④ 関西大学は高槻に、立命館大学は茨木に新学舎を建設した。どこの学術機関がやってくるのか、メドさえ立っていない。
- ⑤ さらに吹田市の支出が、

約30億円から60億円にはね上がっている。区画整理によるこの開発が失敗すれば、この先どれだけ税金が使われるのか。ざっと思いつくだけで、問題だらけの「東部拠点整備」。現在の状況を写真で見てもよい。

写真①はJR岸辺駅前再開発。大きな駅舎と南北自由通路がほぼ完成している。この地区は、操車場が南北を分断していた地区であり、駅前が整備され、自由通路ができることは歓迎すべきことだろう。駅舎の手前にバスのロータリーや商店が並ぶ予定。国循は、この駅舎の左右どちらかに移転し、その病棟に隣接するように市民病院が移転される予定。

写真②は、高層ビルから見た「緑のふれあい交流創生ゾーン」。「緑が足らない」との理由で、吹田市が約30億円を追加して土地を購入結果、予算が倍増してしまっただけ。

写真③は、JR西日本から譲り受けた「ゼロ系新幹線」。これは「タダより高いもの